立っているだけで、人をホッとさせるような存在になりたい。

女優
宮崎淑子（みやざきよしこ）さん

■プロフィール
1958年　12月11日、熊本県熊本市生まれ。
1980年　熊本大学法文学部在学中、週刊朝日「篠山紀信があなたを撮ります・キャンパスの春」に応募し掲載される。これを機にミノルタ・カメラのテレビCMに出演、一躍話題の人となる。同年10月より、TBSテレビ小説「元気です」主演で本格的デビュー。以来、映画、テレビ、舞台などで数多くの作品に出演している。
主な出演作品に、映画「乱」「男はつらいよ・寅次郎の休日」TV「クイズダービー」「なるほど・ザ・ワールド」、舞台「御宿かわせみ」（帝劇）など。

十月、知的障害者のための全国スポーツ大会「ゆうあいピック熊本大会」が開催されます。その後夜祭で司会進行役を務めるのが、宮崎淑子さん。「仕事を通して自分を知りたい」という宮崎さんにとっても、初めての福祉の仕事なので、自分で自分に期待しているそうです。デビュー当時から全然変わらないソフトな笑顔は、きっと温かい空気を作ってくれることでしょう。

テレビ収録中の宮崎淑子さん

同じ空気を共有して直に客席の反応を感じるのが楽しい

デビューして十数年。「そろそろ今までとは違った役柄をやりたいな」と、名前を変えてみました。前よりは大人っぽい（笑）？ 自分でも少し積極的になったかな。丸顔だから、なかなか悪い役はやらせてもらえないけど。今度、ちょっと悪い弁護士役や遊女役が回ってきたのでウキウキしています。

最近やっと、舞台から客席の表情が見えるようになりました。顔の見える関係はいい。毎日同じ芝居をしていても「アレッ、今日は客席の反応がいつもと違うゾ」なんてね。

舞台で伝えたいのは…、エネルギーなのかもしれない。客に投げるとキャッチボールのように返ってくる無言のエネルギー。例えば悲しい場面には、自分の中で一番悲しかった経験を探すんです。「それが客にも通じるものなのか」。不変の悲しさを求めて探すんです。直接言葉を交わすわけではないけれど、こちらと客席の空気がピタッと合ったときには、言い様のない幸福感に包まれる、それがたまりません。

ドキュメンタリーで、自分を知りたい

ドキュメンタリーの仕事を増やしたい。最近は、現実の方がドラマよりも波乱万丈で面白い。それを、自分の目で確かめたいのです。テレビ番組「なるほど・ザ・ワールド」のレポーターの仕事は、私の〝財産〟になりました。テレビのおかげで顔が名刺代わりになってきたのですが、海外ではそれが通用しないんです。「自分は何者でもなかったんだ」と思い知らされました。

中国の内モンゴルが大好き。その風景が阿蘇に似ているからでしょうか。妙に懐かしい感情を覚えました。パオ（テント）で十日間、現地の人たちと生活したのですが、二十代後半の女性たちが、皆、お母さん。私と同じ年なのに、彼女らは生きるための術を身に付けている。私なんて何もできないのに…。「果たして、自分はどのように何の役にたつのだろうか」と考え込んでしまいました。

体中で体験したからでしょうか。このときのレポートは、言葉を考えなくても体の中から、気持ちが、言葉が湧き出したんです。「これを積み重ねていくことで、人生が見えてくるのカナ」と思いました。「自分を知りたい」ですね。見栄とか執着とか余計なものを捨て去ったときの自分。人と張り合ったりするのとは次元が違うもの…。

仕事のジャンルにはこだわりません。大先輩の笠智衆さんや常田富士男さんのように、立っているだけで人をホッとさせる存在になりたいですね。

障害者の方たちには「自然に接するのが一番だ」と思う

「ゆうあいピック」のような福祉の仕事は初めて。地方で第一回目の全国大会だから盛り上げたいですね。私の役目は、勝った人も負けた人も心が和める時間を作ることだと思っています。

十年ほど前、ドキュメンタリーの仕事でベトナムに行ったときのこと。知的障害の戦争孤児の施設を取材したのですが、そこで先生たちが実に明るく喜々として子どもたちに接していらっしゃったんです。すごく感動しました。普通の子どもに接するのと同じように自然で明るい。そのとき思いましたね。たぶん、このようにごく普通に接するのが一番正しいんじゃないかと。障害者の方たちにとっても、健常者にごく普通に交っているのが一番いいんじゃないかと。

とにかく初めてなので、自分で自分に期待しているんですよ。

泥つきのキンカン熊本の匂い…

仕事外で最近凝っているのは、笑わないでくださいよ、菜園なんです（笑）。ベランダにプランターをたくさん並べて、一文字、ミニトマト、青ジソ、月桂樹、ミツバ、ミョウガ、春菊、二十日大根…。忙しいときはつい、虫に食べられちゃったりすることもありますけど。生き物と接していると、心が新鮮になりますよ。熊本の実家から、この前、小荷物が送られてきましてね。開けてみると、我が家の庭のキンカンが一株。それも泥付きで（笑）。

熊本には年に三、四回、帰ります。街の緑一つにもエネルギーを感じますよ。東京では電車で仕事に通ってるんですが、そこで見る子どもたちに比べて、熊本の子どもたちは生き生きとしていますね。人間サイズ、人の顔が見れるサイズの街だから、いい。もちろん、人が集まる活気のある街にもなってほしいけど、このままの良さ、豊かさをも保っていてほしいですね。

「最近、土の匂いが恋しくて。家庭菜園に夢中なんです」